

JVCKENWOOD

JVCケンウッド 決算説明資料

2023年3月期第1四半期（IFRS）

株式会社JVCケンウッド

2022年7月29日

* 本資料の数値は全てIFRS（国際財務報告基準）となっています。



1. 2023年3月期1Q 決算概況
2. 2023年3月期 通期業績予想
3. トピックス

＜参考資料＞

1. 2023年3月期1Q 決算概況

2. 2023年3月期 通期業績予想

3. トピックス

＜参考資料＞

■ 2023年3月期 1Q実績

分野により凸凹はあるも、全社では期初想定を上回った

- PSは、無線システムが好調に推移し想定を超える実績
- M&Tは、OEMでの上海ロックダウンの影響や部品供給問題継続で苦戦
- MSは、メディアの生産移管による影響で前年より悪化したものの、エンタテインメントの好調などにより想定通りの推移

■ 2023年3月期 通期見込み

現時点で通期業績予想の変更はしない

- PSの無線システムは、受注残が前期比で大幅に増加しており、好調が継続する見込み
- M&Tは、上海ロックダウンが解除されたことで7月より生産が回復し、1Qの減少分を挽回できる見込み

2023年3月期1Q 決算ハイライト

(億円)

	'21/3期1Q	'22/3期1Q	'23/3期1Q	前年比	
売上収益	511	645	720	+ 75	+11.6%
売上原価	387	473	532	+ 59	+12.4%
売上総利益	125	172	188	+ 16	+9.5%
利益率	24.4%	26.7%	26.2%		
コア営業利益^{※1}	△ 31	3.7	4.4	+ 1	+19.4%
利益率	-	0.6%	0.6%		
営業利益	△ 31	29	5	△ 24	-82.0%
利益率	-	4.5%	0.7%		
税引前利益	△ 31	28	5	△ 23	-80.7%
親会社の所有者に帰属する					
四半期利益	△ 36	15	△ 2	△ 17	-
EBITDA^{※2}	18	77	50	△ 26	-34.5%
EBITDAマージン	3.6%	11.9%	7.0%		

※1:営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

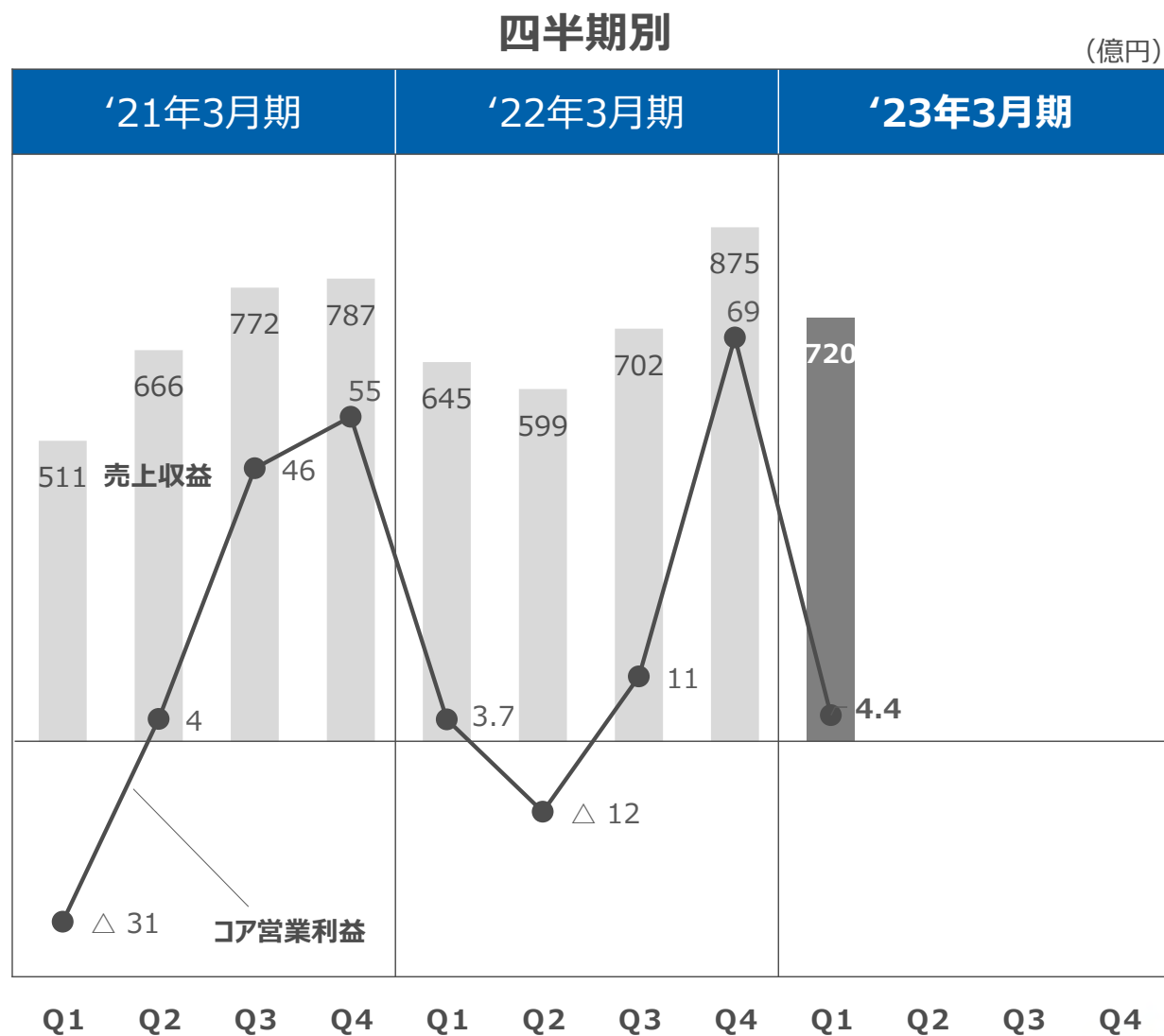
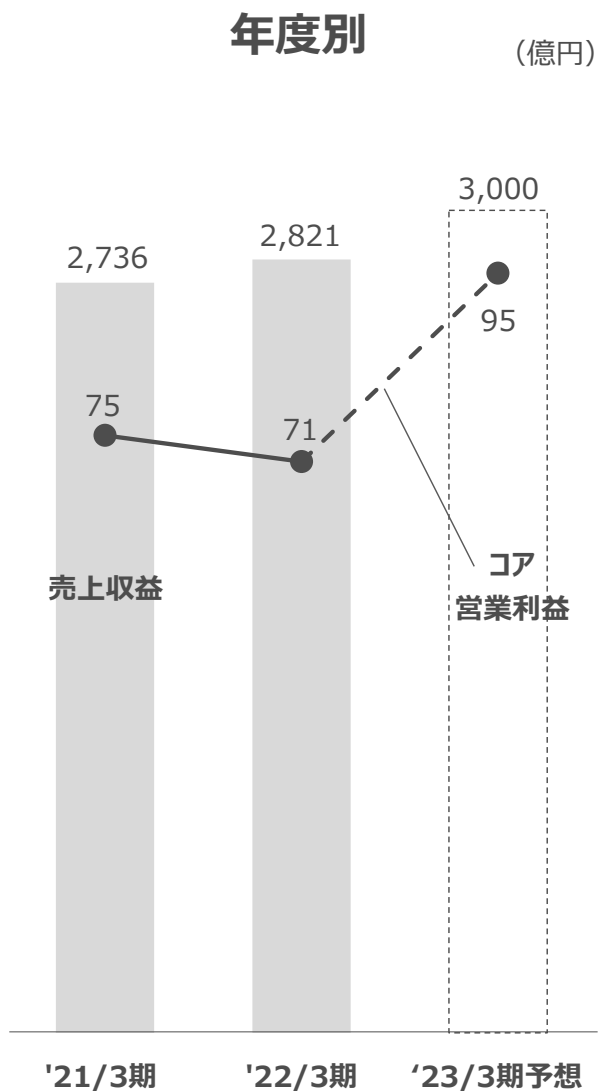
※2:税前利益 + 支払利息 + 減価償却費 + 減損損失で計算

(円)

		'21/3期					'22/3期					'23/3期					
		Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	
損益為替レート	1米ドル	108	106	105	106	106	110	110	114	116	112	130					
	1ユーロ	119	124	125	128	124	132	130	130	130	131	138					

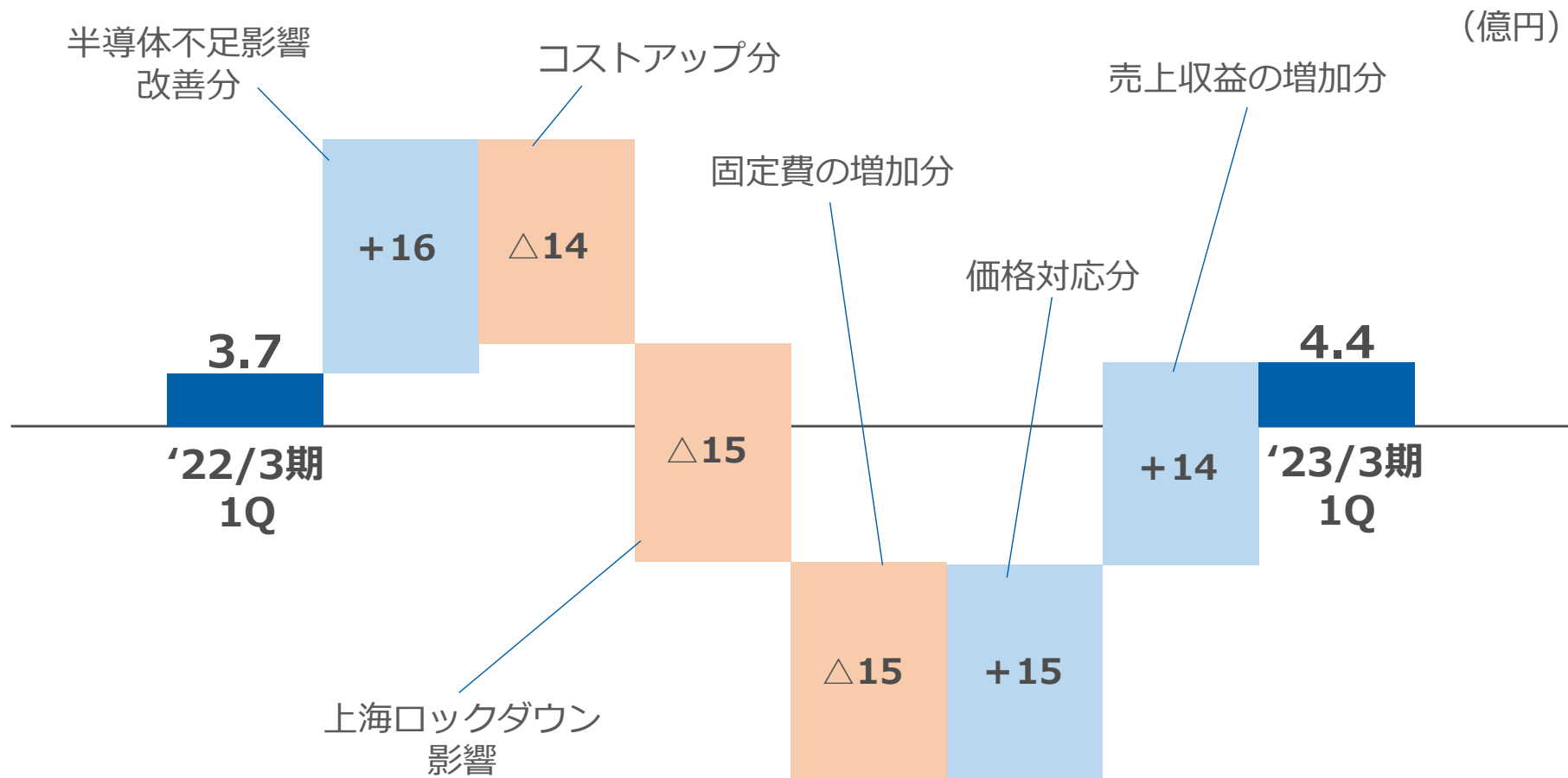
2023年3月期1Q 全社実績推移

- 1QはPSの無線システムの販売が好調に推移し、全社では前期比で増収増益



2023年3月期1Q コア営業利益の増減要因

- 1Qはコストアップ分や上海ロックダウンによる影響などを、値上げ対応や増収分でカバーし、前期比で増益



2023年3月期1Q 分野別の状況

(億円)

		'21/3期1Q	'22/3期1Q	'23/3期1Q	前年比	
M&T	売上収益	290	387	439	+ 52	+13.5%
	コア営業利益	△ 16	2	△ 3	△ 5	-
PS	売上収益	105	126	140	+ 14	+11.1%
	コア営業利益	△ 15	△ 4	7	+ 12	-
MS	売上収益	106	119	129	+ 10	+8.3%
	コア営業利益	1	6	△ 1	△ 7	-
その他	売上収益	10	14	13	△ 1	-6.9%
	コア営業利益	△ 1	△ 0	1	+ 1	-
合計	売上収益	511	645	720	+ 75	+11.6%
	コア営業利益	△ 31	3.7	4.4	+ 1	+19.4%

※'21/3期のM&Tの実績には、'22/3期に編入したテレマティクスサービス事業を含む。

M&T

OEMは上海ロックダウンにともなう生産減影響を大きく受け、減収減益。アフターマーケットは米国の販売堅調、テレマティクスサービスは保険向けビジネス好調継続により、それぞれ増収増益

PS

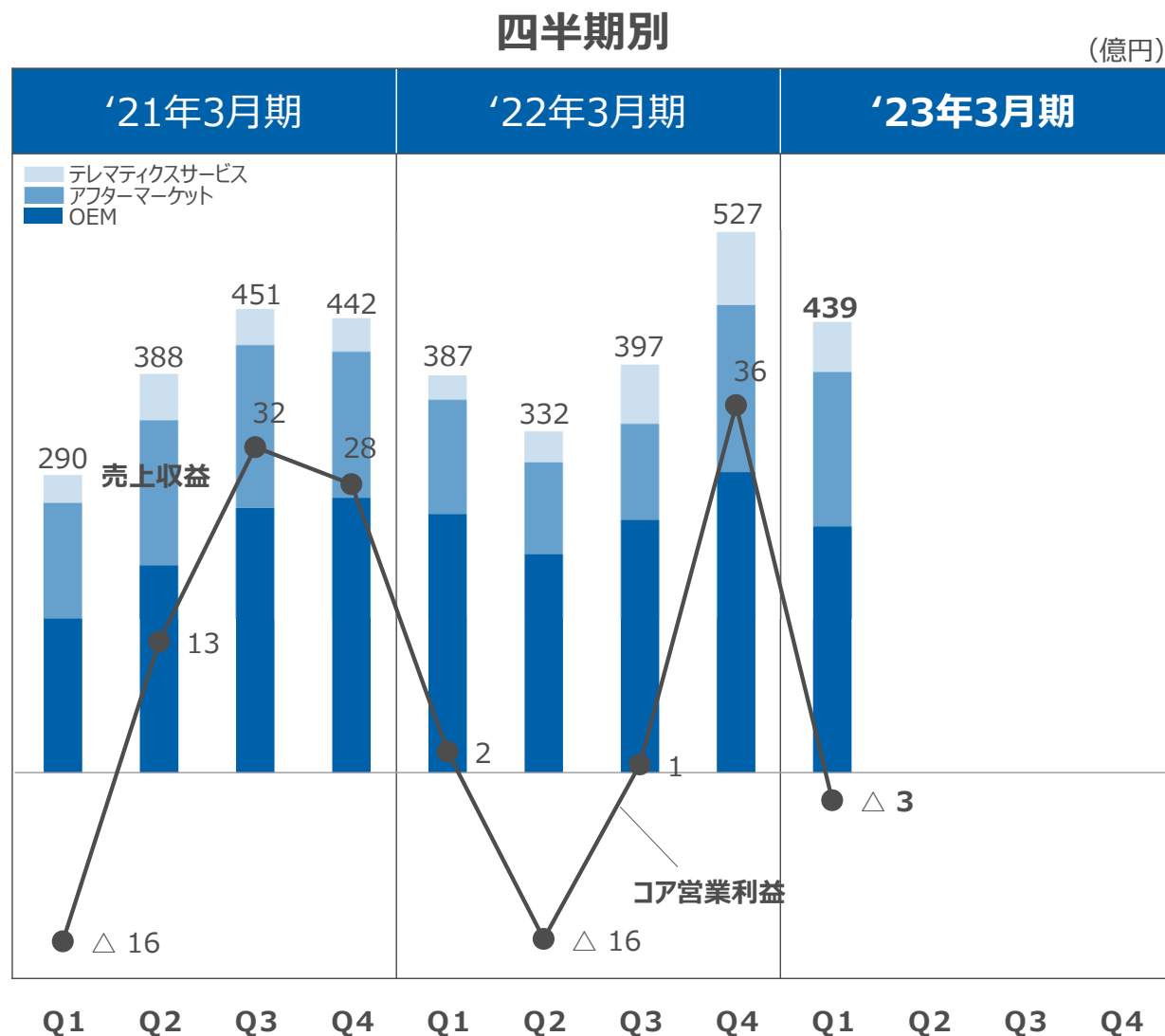
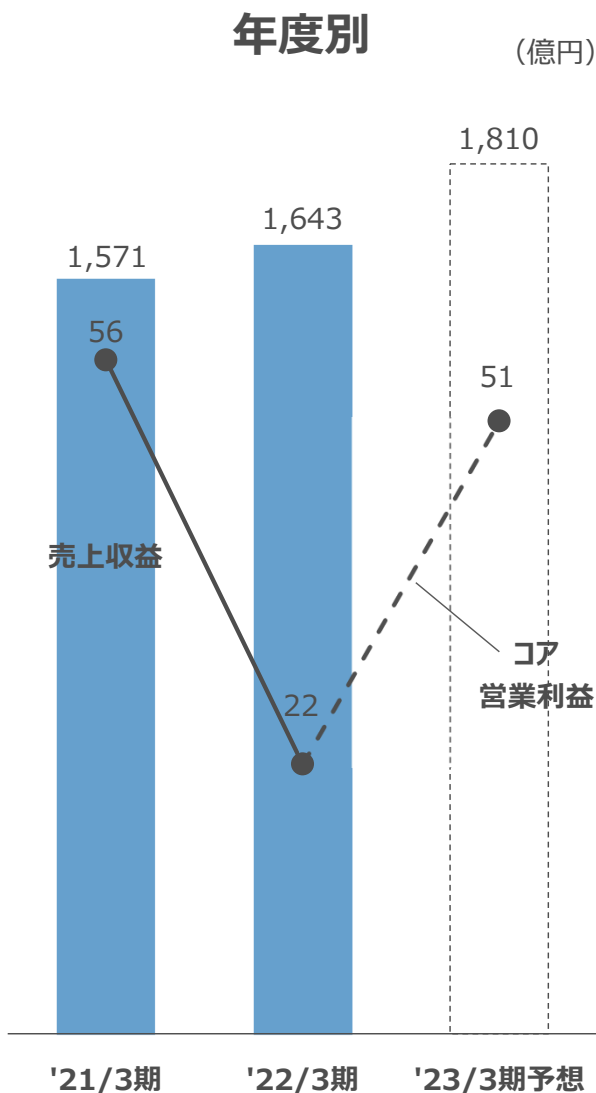
無線システムは、米国を始めとする海外市場で好調な販売が継続し、増収増益
業務用システムは、売上規模の大きい電設市場の販売回復遅れなどから、減収減益

MS

メディアは、業務用ビデオカメラやプロジェクターが生産移管にともなう影響を受け、売上収益は前期並みも減益。エンタテインメントはコンテンツビジネスが好調に推移し、増収増益

M&T分野 売上収益・コア営業利益推移

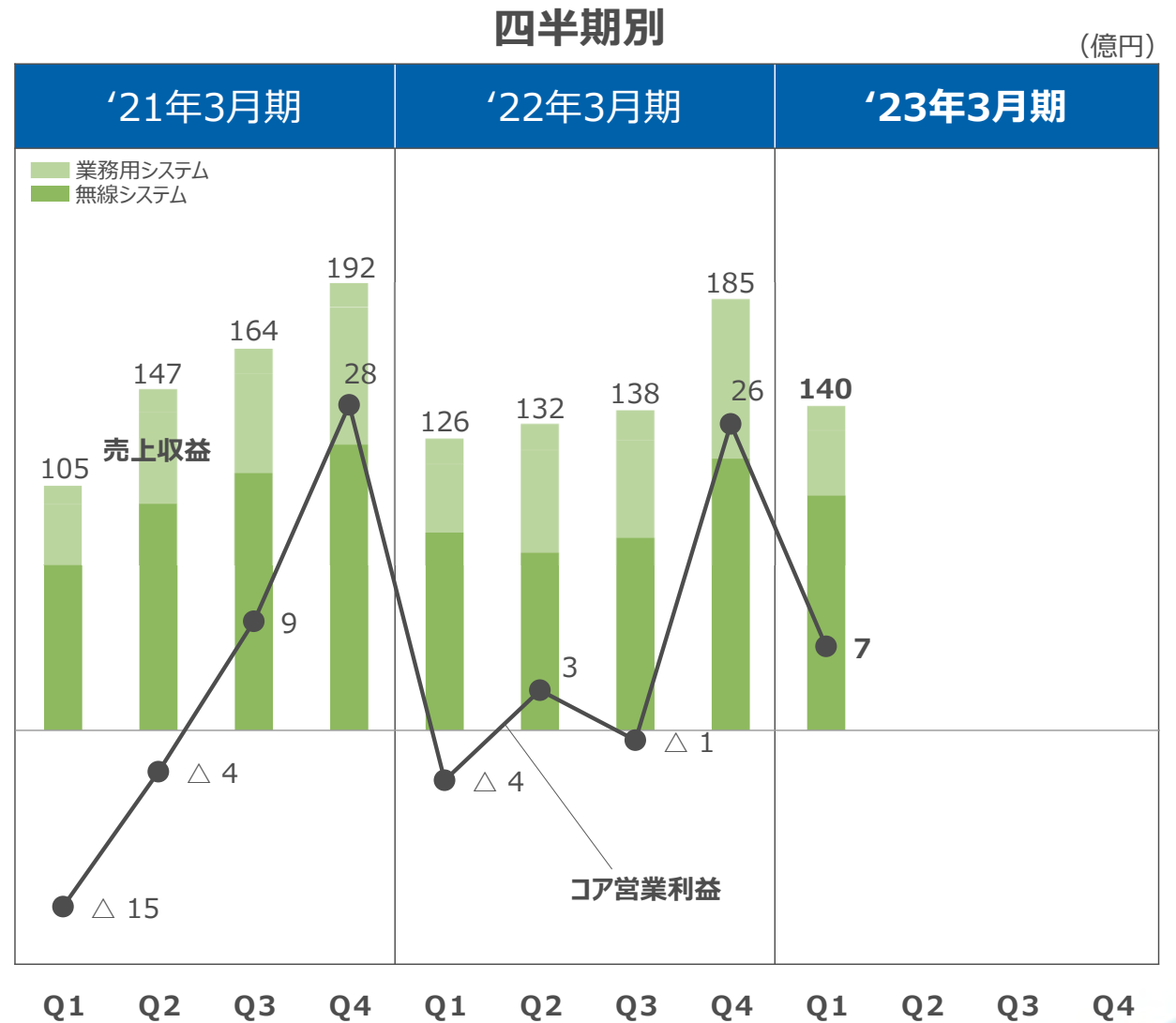
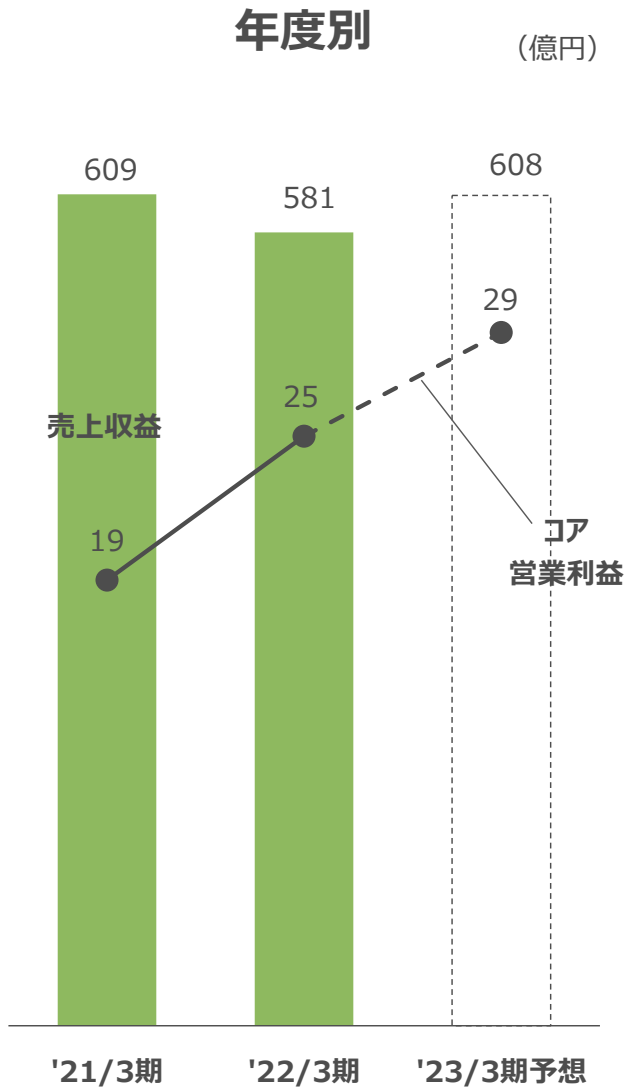
- 1Qはアフターマーケットとテレマティクスサービスが好調だったものの、OEMが上海ロックダウンの影響を大きく受けたことから、分野全体では前期比で増収減益



※'21/3期の年間実績には、'22/3期に編入したテレマティクスサービス事業を含む。

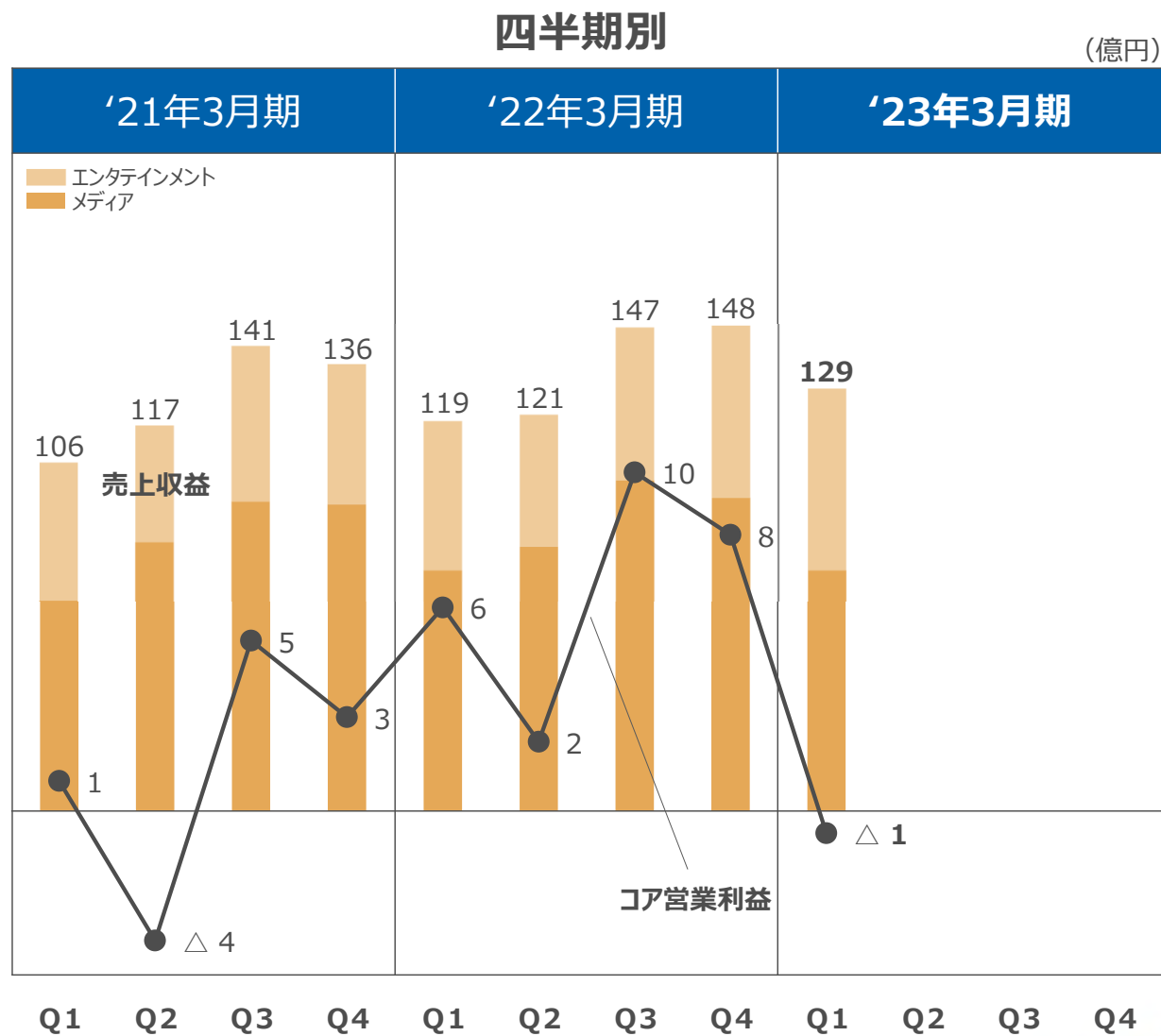
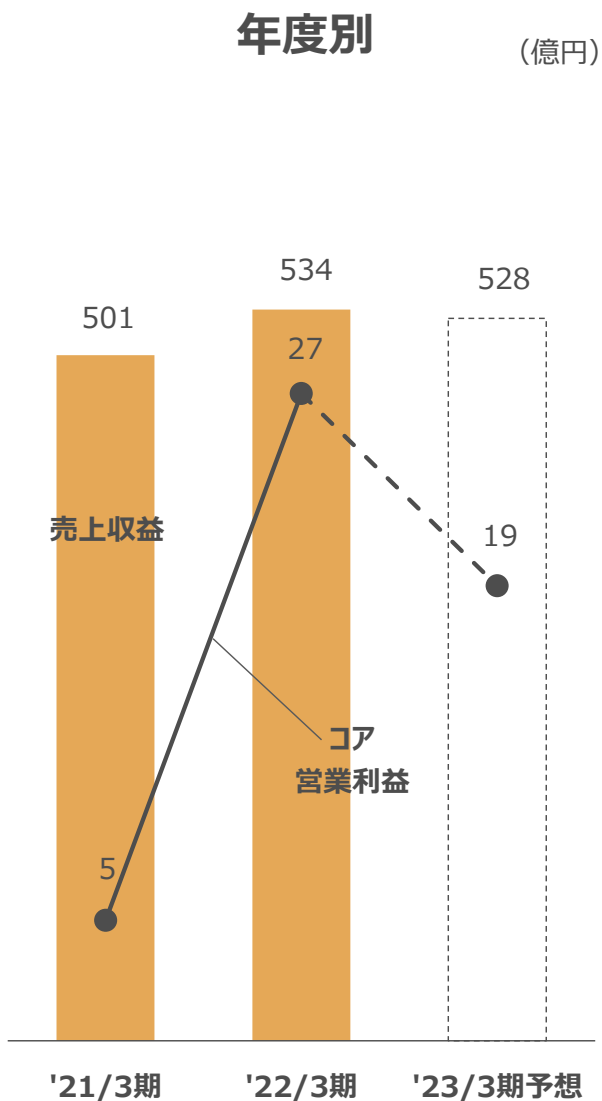
PS分野 売上収益・コア営業利益推移

- 1Qは無線システムが好調を維持したことから、前期比で増収増益となり、黒字スタート



MS分野 売上収益・コア営業利益推移

- 1Qはエンタテインメントのコンテンツが好調だったものの、メディアが生産移管の影響を受けたことから、前期比で増収減益

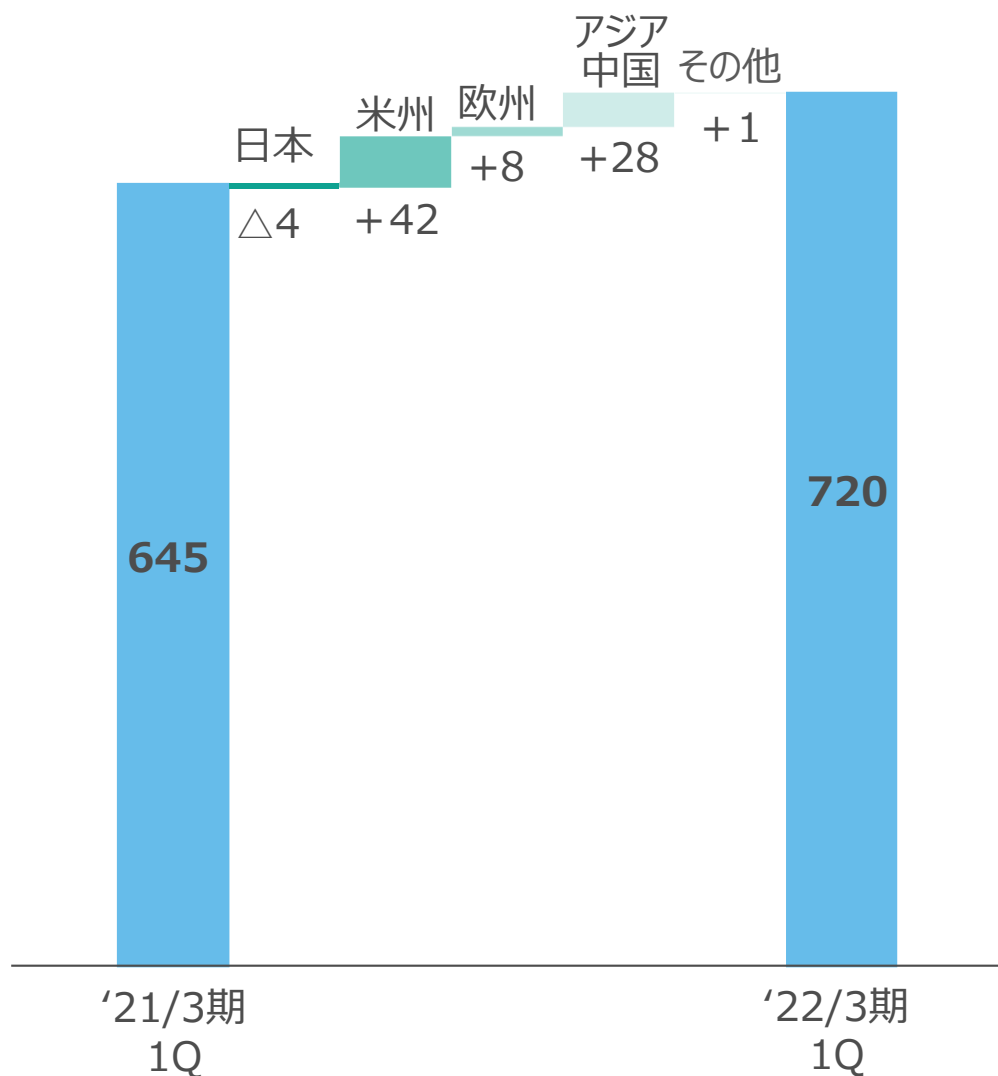


2023年3月期1Q 地域別連結売上収益

- 上海ロックダウンの影響をM&Tの用品（ディーラーオプション）で大きく受けた日本以外は前期比で増収

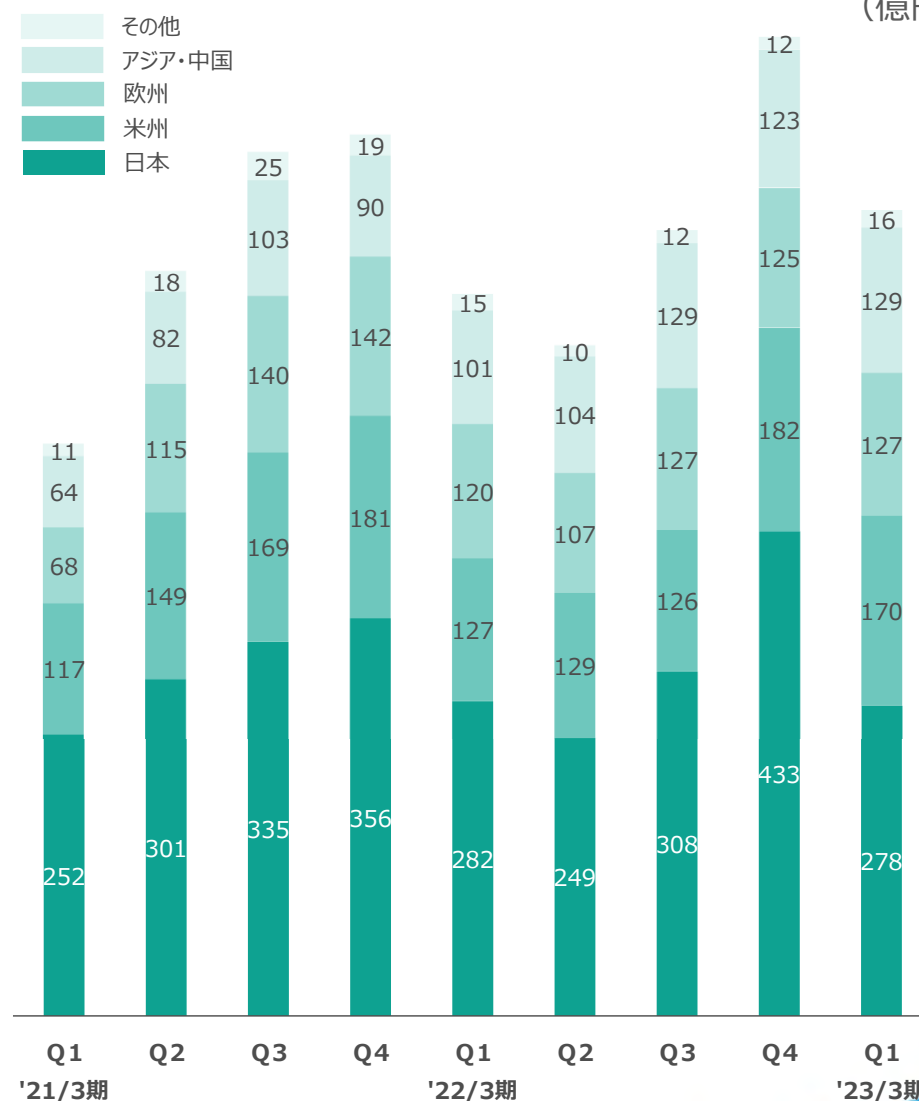
地域別増減

(億円)



地域別推移

(億円)



2023年3月期1Q 連結損益サマリー

- コア営業利益は増収効果により増益となるも、前期に計上した子会社の売却益及び金融資産の評価益が減少したことなどから、営業利益以下の段階損益は前期比では減益

(億円)

	'21/3期1Q	'22/3期1Q	'23/3期1Q	前年比
コア営業利益 [※]	△ 31.2	3.7	4.4	+ 0.7
その他の収益・費用、為替差損益等	0.5	25.0	0.7	△ 24.3
営業利益	△ 30.7	28.7	5.2	△ 23.6
金融収支他	△ 0.3	△ 0.7	0.2	+ 0.9
税引前利益	△ 31.0	28.0	5.4	△ 22.6
法人所得税費用	3.5	11.8	6.2	△ 5.6
非支配持分	1.3	1.5	1.7	+ 0.1
親会社の所有者に帰属する四半期利益	△ 35.8	14.7	△ 2.5	△ 17.2

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

2023年3月期1Q 財政状態サマリー

- 現預金は468億円と前期末比19億円の減少。ネットデットは221億円と前期末比9億円増加
- 親会社の所有者に帰属する持分は、円安によりその他の資本の構成要素が増加したことから、前期末比で約85億円増加

(億円)

	'21/3期末	'22/3期末	'23/3期1Q	前年比
資産合計	2,643	2,808	2,924	+ 116
負債合計	1,958	1,968	1,993	+ 25
資本合計	685	840	930	+ 91
有利子負債	756	698	689	△ 9
ネットデット	159	211	221	+ 9
ネットD/Eレシオ (倍)	0.25	0.27	0.25	△ 0.02
親会社の所有者に帰属する持分	646	795	880	+ 85
親会社所有者帰属持分比率 (%)	24.5	28.3	30.1	+ 1.8

2023年3月期1Q キャッシュ・フローサマリー

- 営業キャッシュ・フローは、部品供給問題による棚卸資産の増加は続いているものの前期からは大きく改善
- 投資キャッシュ・フローは、前期に実施した子会社売却による収入を除くと支出は増加
- 財務キャッシュ・フローは、有利子負債の返済を継続的に実施し、ほぼ前期並みの支出

(億円)

	'21/3期1Q	'22/3期1Q	'23/3期1Q	前年比
営業活動によるキャッシュ・フロー	35	11	30	+ 18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 32	19	△ 44	△ 63
フリー・キャッシュ・フロー <small>(営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー)</small>	3	30	△ 14	△ 44
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 20	△ 34	△ 34	+ 1
合計	△ 18	△ 5	△ 48	△ 43

1. 2023年3月期1Q 決算概況

2. 2023年3月期 通期業績予想

3. トピックス

<参考資料>

2023年3月期 通期業績予想

- 1Qは、PSの無線システムの販売が想定以上に好調に推移したことなどにより、期初想定を上回る実績
- 2Q以降は、PSの無線システムが好調を継続し、上海ロックダウンの解除にともないM&TのOEMが大きく回復する見込みだが、現時点では連結業績予想の修正は行わない

	'21/3期実績	'22/3期実績	'23/3期予想	前年比		(億円) VISION2023目標 ('24/3期)
売上収益	2,736	2,821	3,000	+ 179	+6.3%	3,200以上
コア営業利益	75	71	95	+ 24	+33.0%	120以上
営業利益	49	91	80	△ 11	-11.6%	
税引前利益	45	85	70	△ 15	-17.8%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	22	59	40	△ 19	-31.9%	

	'21/3期実績	'22/3期実績	'23/3期予想
期末配当金 (1株当たり)	5	6	7

		'21/3期実績	'22/3期実績	'23/3期想定
損益為替レート	1米ドル	106円	112円	122円
	1ユーロ	124円	131円	130円

1. 2023年3月期1Q 決算概況

2. 2023年3月期 通期業績予想

3. トピックス

<参考資料>

M&T分野 OEM事業の状況

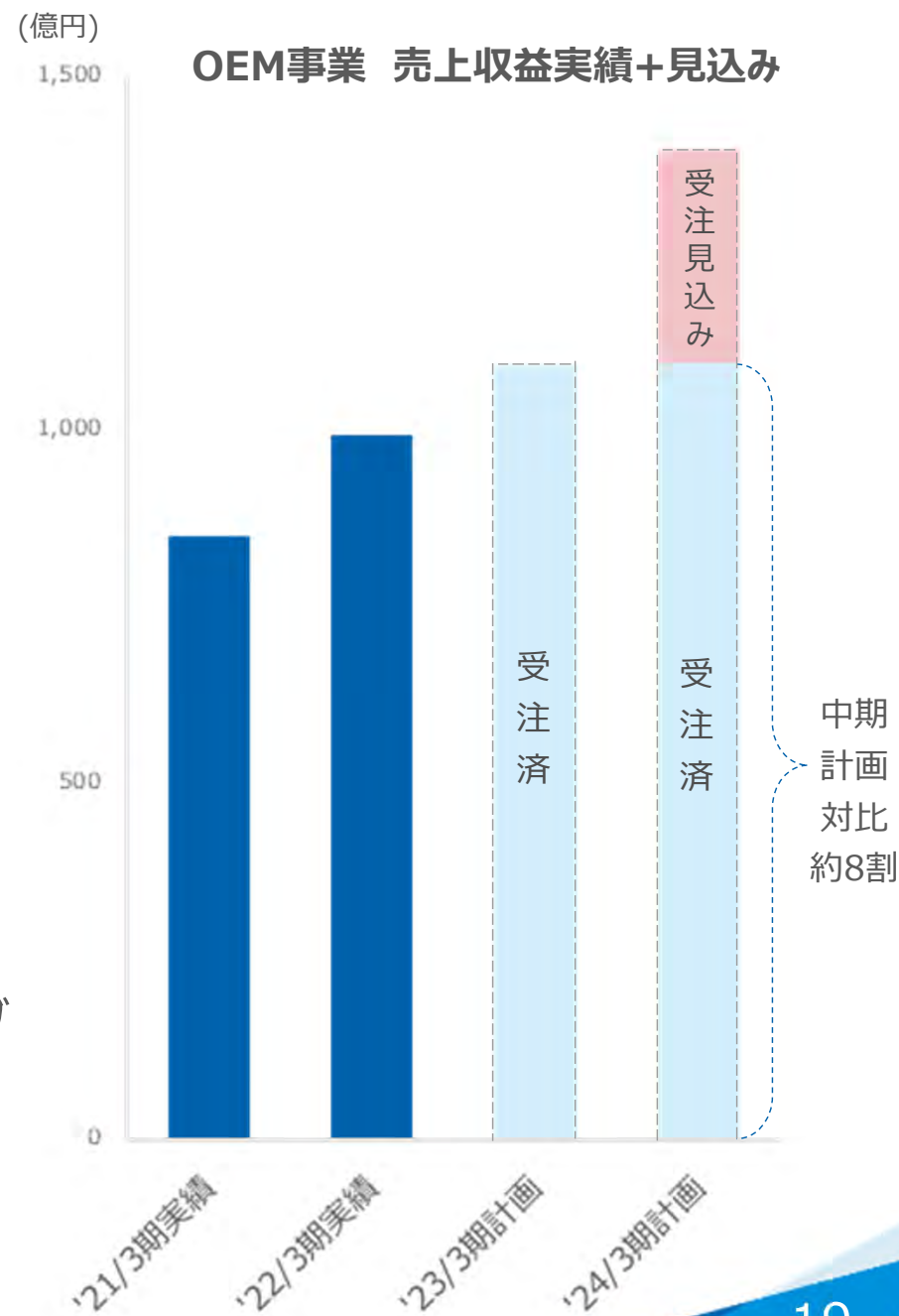
■ 上海工場の状況

- 1Qはロックダウンで稼働停止。コア営業利益影響額△15億円
⇒ 6月下旬より稼働再開し、**通期で挽回見込み**

■ 受注状況

現時点で着実に受注を積み上げ

- **今期（'23/3期）：通期業績予想分は受注済み**
- **来期（'24/3期）：中期計画の約8割は受注済み**
- '25/3期以降の受注活動も堅調に推移
 - 海外OEMが伸長
 - 中国向けデバイス事業（スピーカー、アンテナ、ケーブルなど）が急速に拡大



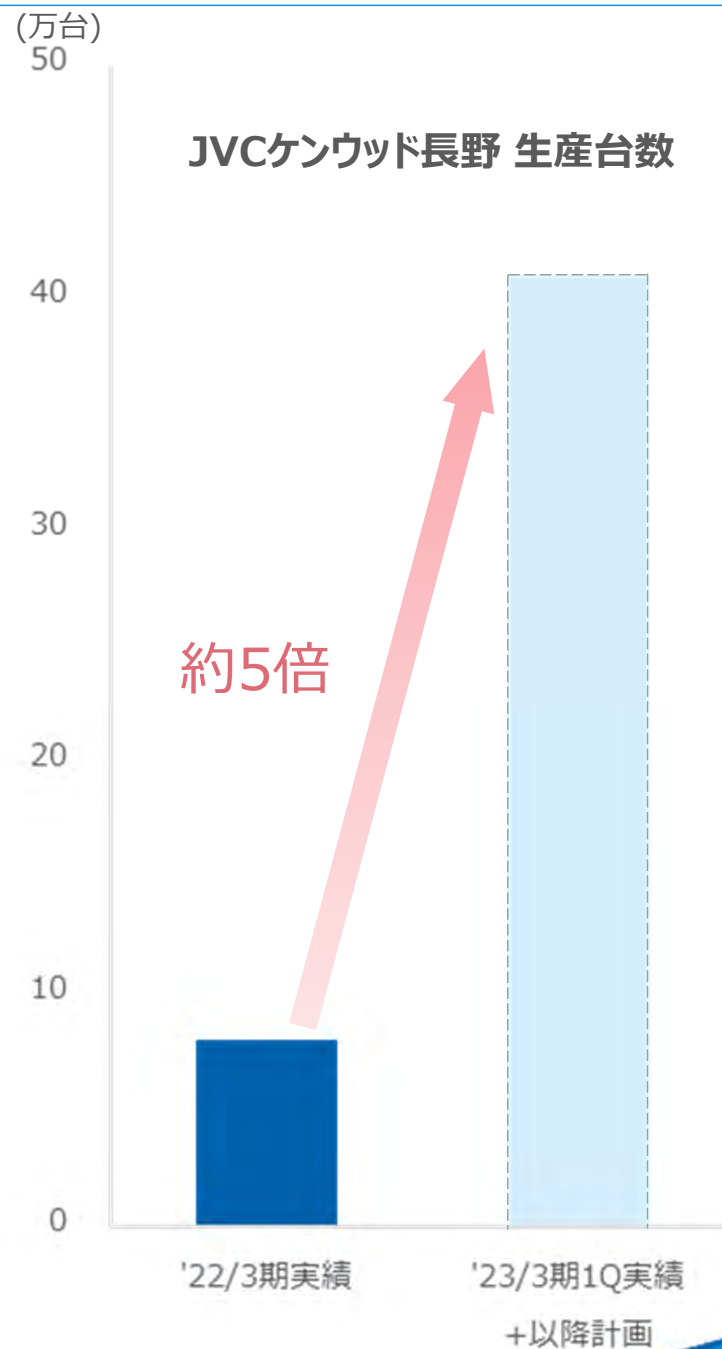
M&T分野における国内回帰の進捗

■ JVCケンウッド長野での生産量アップ

用品（ディーラーオプション）新規案件の生産開始もあり、通期では前年比約5倍の生産台数を見込む

■ JVCケンウッド長野の国内部品調達を強化

- 国内取引先との戦略的パートナーシップの提携を推進（機構部材）
- ドル建て取引引きから円貨取引引きへ変更（半導体部品）
- 在庫圧縮と供給リードタイムの短縮で総原価を低減



「Vieureka株式会社」7月1日より事業開始

- エッジAIの社会インフラ「Vieureka（ビューレカ）プラットフォーム」を提供する新会社「Vieureka株式会社」に出資
 - テレマティクスサービス事業のPhase2として、「通信型ドライブレコーダー端末の付加価値向上によるサービス事業」の創出を図る
 - 新会社とのビジネス連携により、エッジAIプラットフォームサービス事業拡大



2022年6月7日記者発表の様子

左：パナソニックホールディングス株式会社 執行役員 グループ CTO、コーポレートイノベーション・ベンチャー戦略担当 小川立夫氏
左から2番目：Vieureka株式会社 代表取締役 宮崎秋弘氏
左から3番目：当社 代表取締役 専務執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野責任者 野村昌雄
右：WIL, LLC ジェネラルパートナー兼共同創業者 松本真尚氏



PS分野 無線システム事業の成長

■ 無線システム事業は、部品供給問題が改善し大幅回復。供給問題を抱える競合からのシェア獲得が進み成長軌道へ舵を切る

- ▶ 特に米国無線子会社EFJTが展開する**公共安全市場向けシステム受注好調により受注残が大幅増**。今年度は新商品トライバンド対応ポータブル機導入により新規顧客獲得で更にシェア拡大
- ▶ **民間企業向けも、デジタル無線機NXシリーズ※の受注が増加**。想定以上に生産・出荷・販売が進み、売上拡大により業績へ大きく貢献

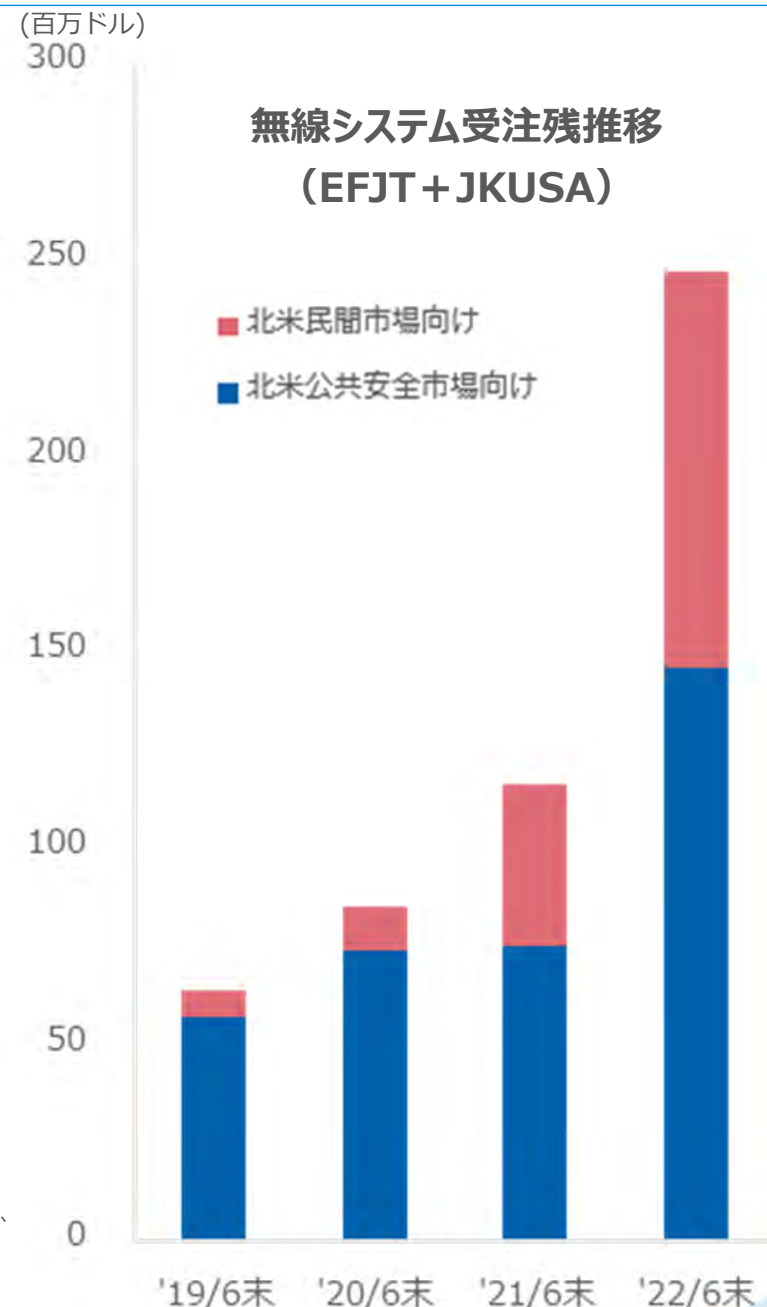
※：当社のデジタル無線機のシリーズ名



新商品「VP8000」（写真中央）を核に、P25無線システムで北米公共安全市場での成長を加速



国際的に権威のあるデザインアワード「iF DESIGN AWARD 2022」において、公共安全市場向け業務用マルチバンド対応デジタル無線機「Viking」シリーズの新商品「VP8000」（写真中央）が、プロダクト分野で受賞



ウクライナへの無線機寄贈

- 総務省の協力のもと、ウクライナの復興支援を目的に業務用無線機を駐日ウクライナ大使館へ寄贈
 - 交通や通信などのインフラが壊滅的な被害を受けているウクライナへ、公共インフラに頼らずに交信が可能な無線機器を寄贈
 - 現地での多種多様な活用を想定し、デジタル方式の国際規格であるNXDN※1やDMR※2に加え、アナログ方式でも使用可能なハイエンド業務用無線機「NX-3220E」を選定
 - 寄贈台数：100セット

※1：当社とアイコム株式会社が共同開発した民間企業向け業務用デジタル無線システムの通信規格、※2：Digital Mobile Radioの略

寄贈した
業務用無線機
「NX-3220E」



金子総務大臣より感謝状を授与されました
(左：金子総務大臣、右：当社CEO江口)

ESGに関する外部評価 — ESG指数FTSE構成銘柄に選定



- サステナビリティやESGに関する情報開示拡充の取り組みが評価され、ESG指数FTSE構成銘柄に選定

	2021年度	備考
<p>FTSE Blossom Japan Index</p>  <p>FTSE Blossom Japan</p>	<p>2年連続で選定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 英国FTSE Russell社が作成したESGに主眼を置いた指数 • SDGsを含むESGの対応に優れた日本企業を一定の評価基準に基づき選定 • GPIF※など世界中の投資家がESG投資の判断基準として活用 <p style="text-align: center;">Overall ESG Score 2020年度 : 3.3 → 2021年度 : 3.9</p>
<p>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</p>  <p>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</p>	<p>初選定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 英国FTSE Russell社が2021年度から新しく公表した企業セクター別指標 • 各セクターにおいて相対的にESGの対応に優れた日本企業を選定 • 低炭素経済への移行を促進するため、温室効果ガス（GHG）排出に着目 • GPIF※など世界中の投資家がESG投資の判断基準として活用

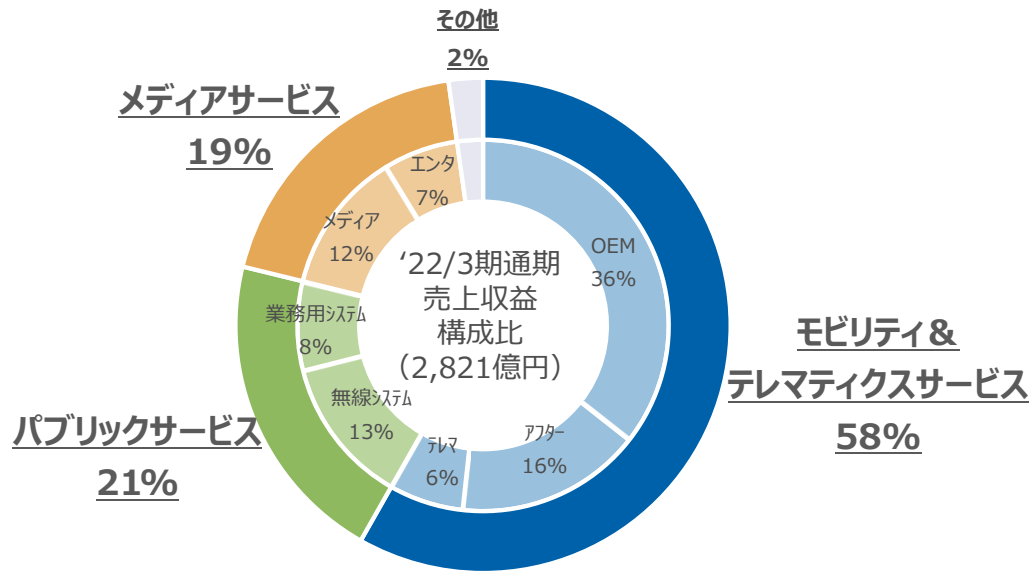
※GPIF:年金積立金管理運用独立行政法人

JVCKENWOOD

〈参考資料〉

JVCKENWOOD

事業内容



2023年3月期 分野別通期業績予想

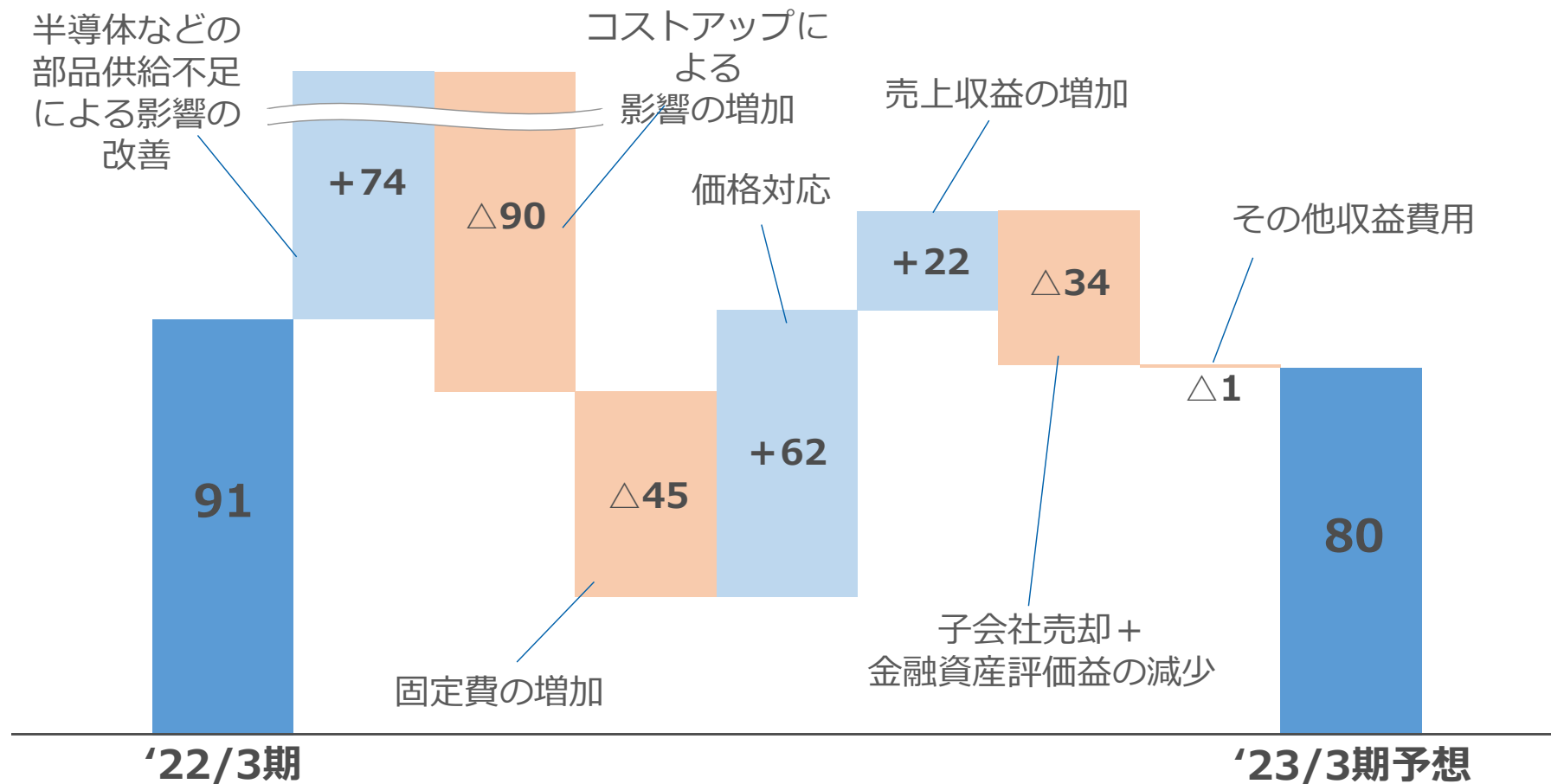
※ 期初予想からの変更は無し

					(億円)
		'21/3期実績	'22/3期実績	'23/3期予想	前年比
M&T	売上収益	1,571	1,643	1,810	+ 167
	コア営業利益	56	22	51	+ 29
PS	売上収益	609	581	608	+ 27
	コア営業利益	19	25	29	+ 4
MS	売上収益	501	534	528	△ 6
	コア営業利益	5	27	19	△ 8
その他	売上収益	55	63	54	△ 9
	コア営業利益	△ 5	△ 3	△ 4	△ 1
合計	売上収益	2,736	2,821	3,000	+ 179
	コア営業利益	75	71	95	+ 24

2023年3月期 通期業績予想 営業利益の増減要因

※ 期初予想からの変更は無し

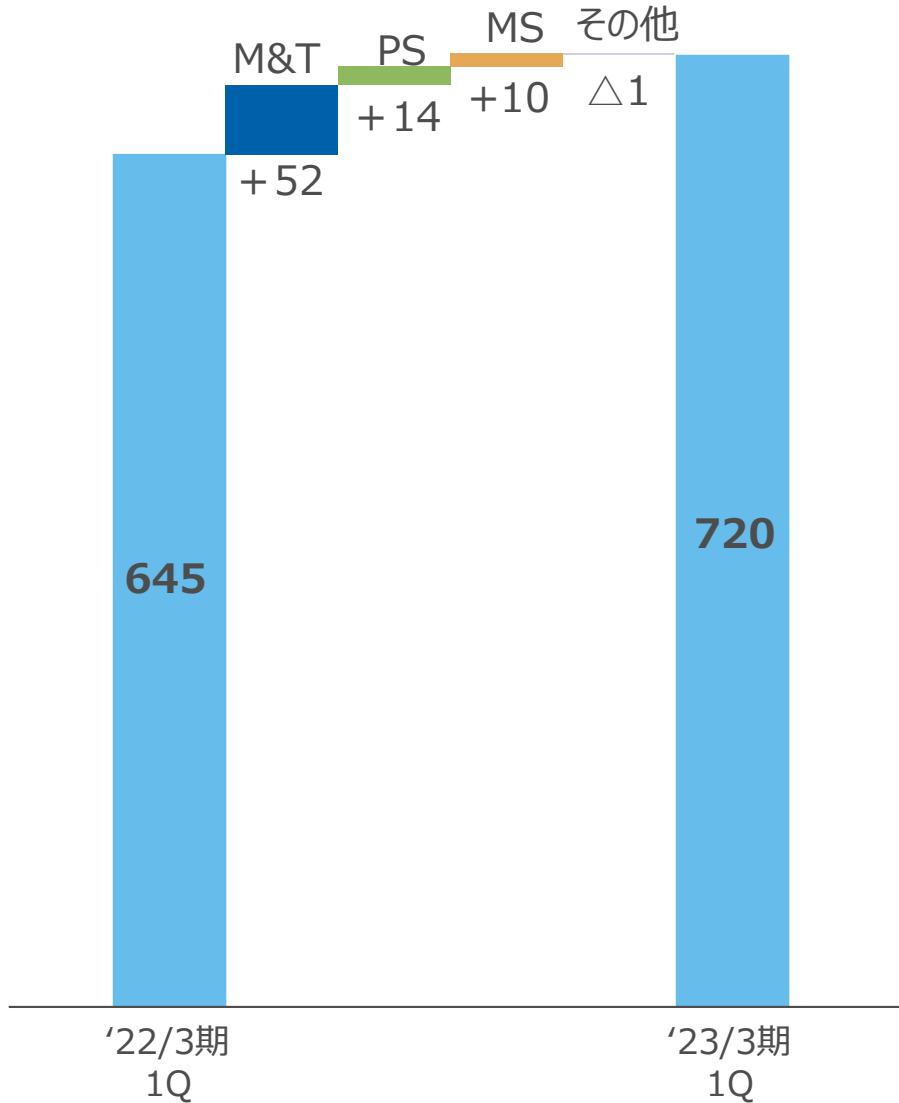
(億円)



2023年3月期1Q 分野別連結売上収益・コア営業利益

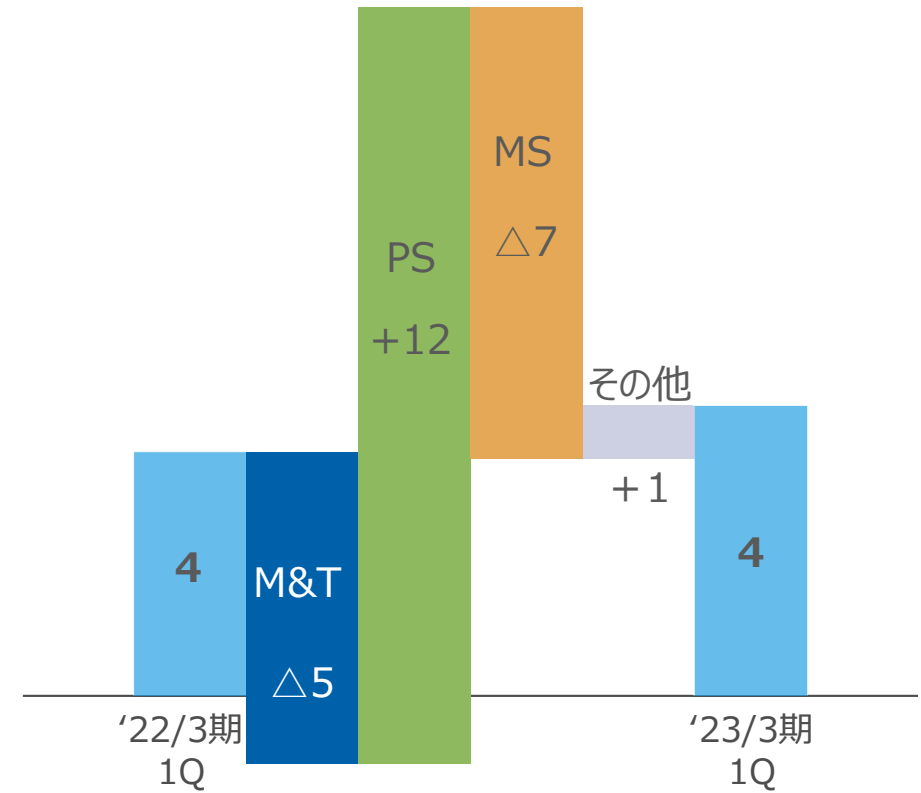
売上収益

(億円)



コア営業利益

(億円)



経営指標推移

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

(億円)

	'21/3期					'22/3期					'23/3期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
設備投資* (有形+無形)	39	33	81	43	195	44	76	55	48	223	54				
有形固定資産	17	9	57	19	103	22	52	30	20	124	33				
無形固定資産	21	24	23	24	93	22	24	26	28	100	21				
減価償却費	47	49	49	49	193	46	43	41	41	171	42				
研究開発費	40	40	38	40	157	40	39	38	41	159	40				

※：有価証券報告書には、有形固定資産のみを記載。

地域別売上収益推移

(億円)

	'21/3期					'22/3期					'23/3期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
日本	252	301	335	356	1,244	282	249	308	433	1,272	278				
米州	117	149	169	181	615	127	129	126	182	564	170				
欧州	68	115	140	142	464	120	107	127	125	478	127				
アジア+中国	64	82	103	90	339	101	104	129	123	457	129				
その他	11	18	25	19	74	15	10	12	12	48	16				
合計	511	666	772	787	2,736	645	599	702	875	2,821	720				

JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。